

第4回ITER理事会結果概要



平成21年7月14日

文部科学省



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第4回ITER理事会の主な出席者

日程:2009年 6月17日(水)ー18日(木)

場所:茨城県水戸市

議長:ルウェリン＝スミス 欧州原子力共同体核融合計画諮問委員会議長

出席者:

日本: 坂田 文部科学審議官 他

欧州: シルヴァ＝ロドリゲス 欧州委員会研究総局長 他

米国: シナコウスキ エネルギー省科学部核融合エネルギー科学科長 他

ロシア: ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会機関長 他

中国: ツアオ(CAO) 科学技術部副部長 他

韓国: キム(KIM) 教育科学技術部第二次官 他

インド: グローバー 原子力省政策部長 他

ITER機構: 池田 機構長 他



第4回ITER理事会出席者(平成21年6月17日撮影)



第4回ITER理事会の結果概要(1)

ITER機構からの活動報告

- ITER理事会は、ITER機構より、以下のような事項について報告を受けた。
 - ・前回理事会以降の主な進展の概要
(ITER機構-各国内機関の統合強化、3つの統合製造チームの始動等)
 - ・ITERサイトの整地状況(2009年3月末に整地完了、道路整備等)〈写真参照〉
 - ・ITER機構職員状況
(2009年5月末時点で364名<うち専門(P)職員254名、支援(G)職員110名>、
このうち日本人専門職員数は23名)
※)前回理事会の報告時、2008年10月末時点で、293名(P217名、G76名)。
このうち、日本人専門職員数は19名
 - ・ITER事業管理(事業管理及び技術統合のための組織構造の改良等)
 - ・予算及び財務(2008年年次会計等)



第4回ITER理事会の結果概要(2)

ITER理事会諮問委員会等からの報告

- ITER理事会は、科学技術諮問委員会(STAC)、運営諮問委員会(MAC)、その他の作業グループ等より、報告を受けた。
 - ・STACからは、2018年の初プラズマを維持する更新スケジュール(後述)を支持する等の報告があった。
 - ・MACからは、更新スケジュールを支持するとともに、コスト見積もり作業について、11月のITER理事会で承認を得るため、コスト見積もり作業の加速化が必要である等の報告があった。
 - ・その他、輸出管理等作業グループ(実施要領案の承認等)及び知的財産管理作業グループ(知財の教育訓練の導入等のITER機構規則への反映検討状況等)などからの報告を受けた。



第4回ITER理事会の結果概要(3)

スケジュール等について

- ITER理事会は、計画の進展のための作業のベースとして、以下を承認した。
 - ・2018年末までに最初のプラズマを発生
 - ・ITER建設の完了に向けた段階的なアプローチ
 - ・2026年に重水素とトリチウムを用いた運転を行う
- 今後、11月のITER理事会において、スケジュール、コスト等を合意すべく、ITER機構及び各極が連携・協力して、努力していくこととなった。



第4回ITER理事会の結果概要(4)

財務状況、運営評価等について

- ITER理事会は、ITER機構の2008年次報告、2009年予算執行の現状、会計検査結果等について報告を受けた。
- ITER協定に基づき、最低2年に1回、ITER機構を運営評価することとなっているが、今般、運営評価人を指名し、また運営評価調整委員会(評価のための運営委員会)を設置した。



<第4回ITER理事会会場風景>



現在のITER建設サイト(2009年5月末)



FOR IMMEDIATE RELEASE

Contact:

Neil Calder
+33 06 14 16 41 75
Neil.calder@iter.org

Comments:

ITER Council meets in Japan

On 17-18 June, the ITER Council, the Governing Body of the ITER Organization, convened for its fourth meeting. The two-day meeting in Mito, Japan brought together representatives from the seven ITER Members: China, the European Union, India, Japan, Korea, Russia and the United States.

china
eu
india
japan
korea
russia
usa

The ITER Council endorsed as a working basis for development of the project baseline the phased approach to the completion of ITER construction and the target date for First Plasma by the end of 2018, maintaining operation with Deuterium and Tritium fuels in 2026. The Council also requested the finalization of a realistic schedule with the resources needed to complete ITER construction. In order to substantially reduce overall risk the primary components of the ITER machine will be assembled and tested together before the progressive installation of in-vessel components continues. A similar approach has been adopted during the construction of all major tokamaks. *“Council recognized that this is a responsible way to build ITER”,* said ITER Council chair Prof. Sir Chris Llewellyn Smith. *“Agreement on this approach was a key milestone towards the planned adoption of the baseline at the next meeting in November”.*

The Director-General of the ITER Organization, Kaname Ikeda, reported on progress since the third meeting of the ITER Council in November 2008. He thanked the Governments of the ITER Members for their ongoing support, saying *“We are creating a new model of global collaboration and the world is watching our progress. We have come together to catalyze the next stage of development of ITER and I hope and trust that the 4th ITER Council meeting will be a memorable event on the way to the demonstration of fusion as a safe, limitless, energy source.”*

The Council reviewed the reports from the various committees and working groups, showing progress on establishing the policies and procedures of this new global collaboration.

The ITER Council appointed a Management Assessor to carry out the Management Assessment, which according to the ITER Agreement, must be carried out at least every two years, and established a Steering Committee for the Assessment.



BACKGROUND TO THE NEWS RELEASE

ITER will be the world's largest experimental fusion facility and is designed to demonstrate the scientific and technological feasibility of fusion power. ITER is also a first-of-a-kind global collaboration.

Fusion is the process which powers the sun and the stars. When light atomic nuclei fuse together to form heavier ones, a large amount of energy is released. Fusion research is aimed at developing a safe, limitless and environmentally responsible energy source.

The ITER project is sited at Cadarache in the South of France. Europe will contribute almost half of the costs of its construction, while the other six Members to this joint international venture (China, Japan, India, the Republic of Korea, the Russian Federation and the USA), will contribute equally to the rest.

Photos of the Council Meeting and ITER can be found at:

<http://www.iter.org/org/team/odg/comm/Pages/Images.aspx>

Further information at

www.iter.org

プレスリリース（仮訳）

日本にてITER理事会を開催

6月17～18日、ITER機構の最高意思決定機関（運営組織）であるITER理事会の第4回会合が招集された。日本の水戸市における2日間の会合には、中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、米国の7つのITER加盟極の代表が一堂に会した。

ITER理事会は、計画ベースラインの進展のための作業のベースとして、2026年に重水素とトリチウムを用いた運転を行い、ITER建設の完了に向けた段階的なアプローチ及び2018年末までに最初のプラズマ発生を行うとの目標期日を承認した。また、理事会は、ITERの建設を完了するために必要な資源を考慮した現実的なスケジュールの最終化を要請した。計画の全体的なリスクを大幅に低減させるために、真空容器の内側に設置する機器を取り付ける前に、ITER本体の主要機器の組立と試験を一緒に行う予定である。同様のアプローチは、全ての主要なトカマク装置の建設期に採用されている。ITER理事会議長のクリス・ルウェリン＝スミス卿は、「理事会は、これがITERを建設するための信頼できる方法であると認識した。このアプローチの合意は、11月の次回会合で予定されているベースラインの採択に向けた重要なマイルストーンである」と述べた。

ITER機構の池田要機構長は、昨年11月のITER理事会からの進捗状況を報告した。機構長は、ITER参加極の政府に対して、その継続的な支援に感謝しつつ、「我々は地球規模の協力の新しいモデルを構築しており、世界が我々の進捗を見守っている。我々はITERの次の段階への発展を加速するために集まった。第4回ITER理事会会合が、核融合が安全で無尽蔵なエネルギー源であることを実証する途上にある記念すべきイベントであることを、私は希望し、確信している。」と述べた。

ITER理事会は、関連する様々な委員会及び作業グループからの報告をレビューし、この新しい地球規模の協力の方針及び手続きの構築が進展していることを明らかにした。

ITER協定に従って少なくとも2年毎に実施されなければならない運営評価のため、ITER理事会は運営評価人を任命し、また、運営評価調整委員会（評価のための運営委員会）を設置した。